

GENROO

Car Entertainment Magazine

[ゲンロク]

ゲンロク 2023年1月号 (毎月26日発売)
11月26日発売 No.443 第38巻第1号

2023
JAN
No.443

1

定価 1100Yen

Porsche

2023

ポルシェ最強伝説

[NA6気筒兄弟の闘い] 911GT3 vs 718ケイマンGT4 RS

[サーキット最速の秘密] 911GT3 RSのサスペンションに迫る

[タイプ992総括] 911GT3 / 911カレラ4GTS / 911カレラ・カブリオレ

[電動化への道] ポルシェ最新BEV現地取材



スーパースポーツ最新事情

フェラーリ・プロサンクエ日本上陸 / フェラーリ296GTS初試乗

マクラーレン・アルトゥーラ in 富士スピードウェイ

特選ショップ全国版

生まれ変わったレクサスLX600やランドクルーザー 300が魅力的なモデルであることに間違いはないだろう。しかし、今や数年単位という納期の壁が立ち塞がる。頻繁に街中で見かけるように、カスタムが盛り上がるようになるまでは、まだ時間がかかりそうだ。そうした中で、福岡に本拠を構える気鋭のチューナーであるECスペックが、早速、LX600を仕上げた。

実際、九州エリアでも最速のタイミングで納車された個体だったという。つまりは手を加えるにあたってデータがなく、すべてが手探りの状態だった。そうした時、ECスペックの井口拓也氏が持つセンスと技術が頼りになる。もうひとつはハイパーフォージドだ。オーダーメイド体制を持って、あらゆるサイズや仕様を作ってくれる。

ホイールはハイエンドSUVはおろかスーパース

ペイント・イット！ ブラック



グラファイトブラックガラスフレークのボディに対して、さらにメッキパーツを中心に黒く落とし込んだ。モール類やグリルは純正のままだが、レクサスエンブレムはカラープロテクションフィルムによってトーンダウンする。こうした小技もECスペックらしさだ。



EC.SPEC LEXUS LX600

福岡に本拠を構える気鋭のプロショップ「ECスペック」から、早速、登場間もないレクサスLX600のカスタムカーが登場した。全身くまなくブラックアウトされて、異様なオーラを漂わす。単に黒く落とし込んだだけではなく、そこには抜群のセンスが宿る。

REPORT●中三川大地 (NAKAMIGAWA Daichi) PHOTO●白谷 賢 (SHIRATANI Ken)



足もとハイパーフォージド [LMC] の24インチを装着する。ボディと同系統のグロスブラック系の色味として、そこに前後305/35ZR24というファットなタイヤを組み合わせた。華やかなメッシュパターンながら、どこかスポーティなテイストも感じられる。

スポーツ界限でも定番となったLMCの10.5J×24インチを。ボディと同じ色味として黒基調を選んだ。そのうえで305/35ZR24サイズのビレリ・スコピオンZEROを組み合わせる。今までLX570界限では295付近の幅を使うのが一般的だったが、今回はそれよりわずかに太くした格好だ。過去、ECスペックが手がけたLX570での装着実績を、こうしてLX600にも活かしたのだ。

ボディカラーはレクサスお得意のグラファイトブラックガラスフレーク。これはメタリックが強く、塗装面はまるでラメのようなキラキラ感が強調される。さらに7組のフローティングバーからなる巨大なスピンドルグリルが備わって、黒基調と

いっても華やかな雰囲気満点である。それをあえて黒く落とし込む方向で舵を切ったのが今回のアプローチだと言える。ボディ側のメッキパーツと、そしてモデリスタのエアロパーツ類はソリッドブラックで落とし込んだ。同じくモデリスタのサイドステップはラッピングによって、フロントに掲げられるレクサスエンブレムはカラープロテクションフィルムを使ってトーンダウンするほど、ディテールにかけるこだわりがある。

とはいえ、やみくもに黒くし過ぎたり、質感を違えればいいというものでもないようだ。先に述べたスピンドルグリルのほか、ルーフレールや窓枠などは純正のまま手を加えず、ごく自然な雰囲

気としているのがいい。黒塗りだけれども黒すぎずという絶妙な塩梅のコーディネートである。

今のところ、ストリートではその存在自体が珍しいのがLX600である。ましてこんな独創的なコーディネートを纏っていたら、誰もが振り向くスーパーカー級のオーラを放つに違いない。しかも、きらめくネオンがボディに溶け込む夜こそ似合いそうだ。健康的なアウトドアツールはランクル300に任せておいて、LX600は堂々とコワモテを演じていたい。このコーディネートにはそんな潔さがある。やがて、LX600の異常なほどの納期待ちが解消される頃になっても、このLX600は孤高の存在感を放ち続けると思う。

